

日本天文学会 早川幸男基金による  
渡航報告書

*The Fifth International Conference  
on Mars Pasadena, California, July  
19-24, 1999*

と いう国際会議がこの夏カリフォルニア工科大学にて開催されました。私はこの国際会議に於いて、この春アリゾナ州スチュワード天文台で観測したデータの解析報告を発表するため、一路パサデナへ向かいました。

実は、今までに若手の会夏の学校に於いて（形ばかりの）ポスター発表をしたことはありましたが、今回のこの発表、私にとって初めての口頭発表でした。初めて発表するのが海外とは、我ながら無茶なことをするものだと思ったものです。また、前述の4月の観測に於いて、嫌というほど自らの英語力不足を思い知らされた記憶も薄れぬままの今回の単身渡航、往路の機内で不安に苛まれ続けました。

どうなることかと思ひながら迎えたレセプションに於いて、神戸大の稲田さん、宇宙研の早川さん、東大の佐々木さんにお会いすることができました。

さてこの国際会議は、タイトル通り、火星に関する研究報告の場です。火星と一口に言っても、その分野、内容は多岐にわたり、地球物理学的アプローチと宇宙物理学的アプローチの融合するこの惑星科学の奥の深さが、セッションのタイトルを見るだけでわかります。

The Martian Interior

Martian Crust, Volcanism, and Tectonics

Upper Atmosphere and Volatile Evolution

Structure and Dynamics of the Atmosphere

(Instruments and Missions)

Water and Ice on Mars

Surface Materials: Close-Up / Orbital View

Seasonal Changes: Water, Dust, and CO<sub>2</sub>

Polar Caps and Layered Terrain

Biological Potential of Mars

Mars: The Future

私は Seasonal Changes のセッションで、“**The Blue Clearing at Syrtis Major and Its Relation to Equatorial Clouds: 1997 and 1999 Observations**”なる講演を致しました。

「外国人研究者はどんなにつまらない発表でも必ず何か質問をしてくるものだ」と諸先輩方から伺っておりましたので、その点かなり不安でしたが、質疑応答も無難にこなせたものと（自分では）思われる程度であったと思います。また発表では必ず何か会場を湧かす発言がなされ（招待講演でいきなり見せた OHP フィルムが「MLB の Perfect Games の数と Dust Storm の発生頻度の関係」とかいうものもあった）、爆笑の渦といった状態もしばしばあり、終始和やかなムードでした。私のこれからの発表も、そうありがたいものです。

研究報告以外でも興味深かったのは、その参加者の多様なことでした。参加者の方々、また共著で名を連ねた方々を見ると、～ Astronomy (Astrophysics) の方々であったり、～ Geophysics, Planetary ~ の方々、JPL, NASA, …… 肩書きで区別される日本と違い、ただただ「研究対象が火星である」という名の下に大勢の研究者が集う、そのスタンスに考えさせられるものがありました。また集録が出版されない代わりに extended abstract が、しかも CD-ROM で配布されたことにも驚かされました。

会議ではたっぷり最前線の研究報告を聴くことができ、非常に得るところの多いものでした。

復路の機内では、往路での不安は消し飛び、非常に満ち足りた気分であり、そして今回の渡航での脳の発達(?)を感じながら、無事帰国することができました。

最後になりましたが、現地で大変お世話になった稲田さん、早川さん、佐々木さんにこの場を借りてお礼申し上げますと共に、この渡航に御援助頂いた日本天文学会早川幸男基金関係者の皆様に感謝致します。ありがとうございました。

中申 孝志

(京都大学大学院理学研究科宇宙物理学教室)